

## 26 フェンシング

### 事故防止のための3カ条

- 1 防具の不備は重大事故につながる危険性があるため、  
装備(防具)を正しく装着する。
- 2 正しい剣の操作を心がける。
- 3 装備の安全確認を徹底する。



### 日頃の練習や競技会に潜む危険因子

- 1 用具等における危険因子
  - 様々な剣先を有した剣を使用するため、不注意から他者に危害を加える危険性がある。
  - 用具(剣、プロテクター、グローブ等)の不備により、自分や相手が怪我をする危険性がある。
  - マスクにより視界が狭くなることから、他者等との接触による怪我の危険性がある。
- 2 環境による危険因子
  - マスク、グローブ、プロテクターなど競技において防具を着用することから、体温調節が十分にできず、熱中症等になる危険性がある。
  - 電気設備を使用することから、感電する危険性がある。
- 3 競技特性における危険因子
  - 瞬時の判断により勝敗を決することにより、剣の操作ミスによる事故の危険性を有している。
  - 両者が同時に攻撃する場合に、相手との接触による事故の危険性を有している。

### 事故防止のための安全対策

- 1 マスクの不備
  - 錆びていない物や激しく変形、凹みがない物を使用する。
  - 脱落防止バンドがついている物を使用する。
  - 練習会場が混雑している時はマスクを外さない。
- 2 ユニフォーム・プロテクターの不備
  - 練習でもユニフォーム・プロテクター、ストッキングを必ず着用し、着用の際にはファスナーを最後までしっかりと閉める。
  - ユニフォームの破れやほつれについて、着用時に確認する。
  - 女子については、両胸にカップを着用する。
- 3 グローブの不備
  - 練習中はグローブを必ず着用するとともに、着手時に破れやほつれを確認する。
- 4 剣の不備
  - 剣は、錆びている物や折れかけている物、ガードが変形している物を使用しない。
  - 剣を使用する際は、ポイントがあるか、壊れていないかを確認する。
- 5 剣の取り扱い等について
  - 相手を突く瞬間に腕の力を抜くようにする。
  - 対戦中に剣が折れた場合は、すぐに力を抜く。
  - マスクをかぶっていない相手には、絶対に剣先を向けない。
  - 移動の際は、必ず剣先を床に向けて歩行する。
  - 剣を持たない手で、有効面を手で覆わないように事前に指導し、習慣づけさせる。